

Green Ishikawa
No.155

グリーン いしがわ

3
2023.March

令和4年度 JAグループ石川 TACパワーアップ大会



Green Ishikawa Contents

News & Topics

- ・令和5年度事業計画のあらまし
- ・石川県本部 令和5年度事業計画
- ・エアリーフローラ～旅立ちを祝う花、花言葉は「希望」～
- ・能登原木しいたけ「のどてまり・のと115」
～能登の自然が育んだ最高級椎茸～
- ・ういずOneの新規活用～いちごの試験栽培～
- ・ニッポンエールグミで子供たちを元気に!
- ・「ひゃくまん穀」生産者大会

お知らせ ほか

- ・米心石川
- ・JAホーム
- ・ひゃくまん穀無洗米キャンペーン



f 全農いしかわ公式
Facebookページ

全農いしかわの公式Facebookページ
「石川うまれがだいすきさ」

県産農畜産物やJA加工品、イベント
情報などを掲載中! ぜひご覧ください!

URL: www.facebook.com/ishikawaumare.daisukisa



JA全農 令和5年度事業計画

基本的な考え方

変化する事業環境に対応し、引き続き生産者と消費者を結ぶ役割を担うため、今次中期事業計画で設定した「全体戦略」をさらに発展させ、令和5年度事業計画を策定・実行します。

全体戦略

- ①生産振興
- ②食農バリューチェーンの構築
- ③海外事業展開
- ④地域共生・地域活性化
- ⑤環境問題など社会的課題への対応
- ⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

2030年の全農グループのめざす姿

持続可能な農業と食の提供のために
“なくてはならない全農”で
あり続ける

- ①JAと本会が情報を共有し、一体となって生産者にベストな支援をおこなう
- ②マーケットインを起点に、JAグループとしての食農バリューチェーンを構築する
- ③地域の暮らしと食に貢献するとともに、環境に配慮した事業をおこなう

<事業戦略>事業環境に対応した具体策

①生産振興

1. 肥料の銘柄集約や共同購入など生産コスト低減に向けた取り組みを強化するとともに、最新のデジタル技術の普及・活用により、生産性向上をはかります。
2. 堆肥や子実とうもろこし等の国内資源の活用、輸入依存度の高い穀物（麦・大豆・子実とうもろこし等）の計画的な増産を通じ、食料自給率の向上に取り組めます。
3. 国内研究機関と連携した品種開発や種子の確保に取り組むことで、将来に渡り持続的に農家経営ができる環境を整えます。

③海外事業展開

1. これまで50年以上かけて築いてきた海外ネットワークや全農グループの海外インフラを最大限に活用することで、肥料・飼料原料の必要量を安定的に調達します。
2. 海外の実需者ニーズを把握したうえで、マーケットインの輸出に取り組むとともに、現地加工施設を設置することで、商品の付加価値を高め、輸出拡大に取り組めます。
3. 国内における育成者権の保有者等と連携し、新品種の海外流出を防止するとともに、ロイヤリティーの確保に向けた仕組みづくりをすすめます。

②食農バリューチェーンの構築

1. 農畜産物の効率的な輸送体制の構築に取り組むとともに、実需者・消費者のニーズに対応した食品流通施設への積極的な投資をおこないます。
2. 本会ECサイトやグループ飲食店舗等を活用した地域の販売事業支援など、国産農畜産物の価値向上による適正な価格の実現に取り組めます。
3. グループ会社や他企業との連携により地域の特徴ある原材料を使用した商品開発を加速するとともに、本会グループの商品ブランドの認知度向上と販売力強化をすすめます。

④地域共生・地域活性化

1. 地元の農産物を提供するファーマーズ型Aコープ店舗の出店拡大や直売所の運営支援により、生産者が意欲的に農業に取り組める環境づくりに貢献します。
2. 太陽光発電や蓄電池などの普及に取り組む、地域で使うためのエネルギーを地域でつくる環境を整備します。
3. 過疎地域におけるライフライン対策として、生活物資の宅配や簡易型SSの設置などインフラ・サービスの維持・向上をすすめます。

のあらまし



食と農を
未来へつなぐ

情勢認識

1. 新型コロナウイルスの影響

社会活動の制限は緩和傾向にあるが、減少した国産農畜産物の消費はコロナ前の水準まで回復していない。また、海外からの労働力不足が課題となり、生産現場を支える省力化技術などの対応が求められている。

2. ロシア・ウクライナ情勢を始めとした地政学的リスクの高まり

海外サプライチェーンの混乱等により、原料の調達競争が激化しており、多くの資源を輸入に依存するわが国では、安定的な海外原料の調達の維持が求められている。

3. 資源価格の高騰

生産資材価格が高値で推移し、農家経営の圧迫による離農の加速が懸念されるなか、生産コスト等を反映した適正な販売価格の形成が強く求められている。

4. 食料安全保障への関心の高まり

円安等による輸入農畜産物価格の上昇により、輸入比率が高い農畜産物の国産化をはじめとする食料自給率の向上がより一層重要となっている。

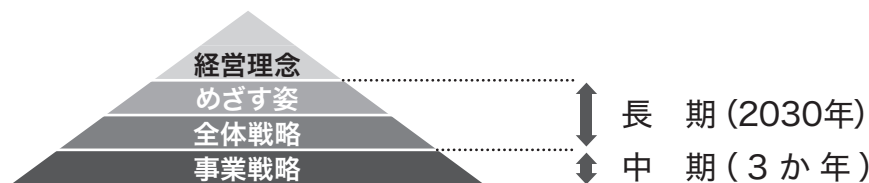
5. 環境調和型農業の促進

「SDGs（持続可能な開発目標）」の取り組みの深化や「みどりの食料システム戦略」への具体的取り組みがさらに求められている。

6. JAを取り巻く環境

営農・経済事業におけるJA職員の減少がすすみ、営農指導・担い手対応などへの影響が懸念されている。

中長期の事業計画の体系図



⑤環境問題など社会的課題への対応

1. 畜産現場で発生する堆肥および堆肥入り混合肥料の開発や広域流通などにより、循環型の耕畜連携事業を構築します。
2. 農業における温室効果ガスの削減に向けて、水田や畜産、園芸施設等における脱炭素の取り組みをすすめます。
3. 国が主導する長期的な環境技術開発事業に国内研究機関等と連携して参画、長期的な環境技術の開発に取り組めます。

⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

1. 事業競争力の強化と効率性の両立のため、JA域を超えた広域の拠点整備や共通システムの開発を推進します。
2. グループ会社の事業再編や資金、情報インフラ等の一体的な運用をすすめるとともに、グループの人材活用やガバナンスを強化します。
3. JAグループが持つ情報をデジタル技術により事業に役立てることで、農家・組合員サービスの向上に取り組むとともに、将来の事業変革にも対応します。

災害などの危機管理への対応

1. コロナ禍にともなう社会的変容への対応
2. 激甚化する自然災害からの復旧支援と災害への対応準備
3. 重要家畜疾病対策の強化

石川県本部 令和5年度事業計画

I. 石川県本部における重点施策

石川県本部では、今次3か年（令和4年度～6年度）計画において、「生産振興と生産基盤の強化」「需要開拓と販売力の強化」「大規模経営体への総合的対応と事業競争力の強化」「JAへの支援拡充と最適な事業体制の構築」「新たな事業領域の拡大」の5項目を重点施策と位置付け、事業別目標の達成に向けて取り組んでいるところです。

令和5年度は、3か年計画の2年目として、「2030年のあるべき姿」の到達目標をふまえた視点に立ち、重点施策を確実に実践します。

また、昨今の急速に変化する世界情勢等、それに伴う事業環境の変化等に対し、JA・農家組合員の負託に応えるべく「なくてはならない全農」の実現に向け、大胆かつ積極的・主体的に、持続可能な農業とJAグループの事業拡大に取り組みます。

【石川県本部の5つの重点実施策】

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ① 生産振興と生産基盤の強化 | ④ JAへの支援拡充と最適な事業体制の構築 |
| ② 需要開拓と販売力の強化 | ⑤ 新たな事業領域の拡大 |
| ③ 大規模経営体への総合的対応と事業競争力の強化 | |

【生産振興と生産基盤の強化】

（米穀）

ア. 需要に応じた主食用米の計画生産と水田活用米穀の需要確保

イ. 麦・大豆の生産拡大と単収の向上

ウ. 需要に応じた計画的種子生産と県内種子場産地の供給力維持

（園芸）

エ. JAグループ石川営農戦略室と連携した園芸主要品目の生産振興と県ブランド品目の生産拡大
オ. 園芸種苗センターにおける優良種苗の安定生産と実証モデルの提案

（畜産）

カ. 本会実験農場の運営による能登牛の生産性向上の支援強化・担い手育成

キ. 関係機関と連携した経営改善支援・担い手育成による畜産農家の経営基盤強化

ク. 能登牛・能登豚の生産拡大に向けたリース式牛舎の導入検討、全農グループ直営能登豚農場設置計画の具体化

（営農）

ケ. 水稻＋麦＋大豆2年3作体系等水田高度利用の取組に向けた未実施地域におけるモデル実証の取組推進

コ. 「うまい・きれい石川米づくり＋1運動」の展開による県産米の収量向上、品質の高位安定化推進

サ. 「みどりの食料システム戦略」の取組み実施に向けた関係機関との協議・計画作成

（肥料農業）

シ. 被覆肥料における環境対策・環境保全に対応した農業への切替・新規技術の開発による持続可能な農業への取組

【需要開拓と販売力の強化】

（米穀）

ア. 県産米の販売推進体制強化と提案型推進展開による新規実需者への販路拡大

イ. ひやくまん穀の生産拡大に応じた新規販路開拓を進めるとともに、県産米ブランドの確立に取り組めます。

ウ. 百万石乃白の栽培技術向上と生産拡大並びにPR・販促強化による需要開拓

（園芸）

エ. 重点量販店等への企画販売の推進による主要品目の契約取引や直接販売の拡大

オ. 生産拡大と連動した生産振興品目、県ブランド品目の販売強化

カ. 輸出品目の拡大と海外での販促展開

（畜産）

キ. 能登牛の東京食肉市場実需者開拓のための首都圏での販促活動

ク. 県内外能登牛認定店の拡大

ケ. 新包装肉パックセンターの稼働に向けた体制整備および新包装形態による能登牛・能登豚の商品開発

【大規模経営体への総合的対応と事業競争力の強化】

（米穀）

ア. J Aと実需者を結び付けた事前契約の拡大による県産米の早期販売

イ. 大規模経営体等への訪問推進強化による実需者指定品種等の生産拡大

ウ. 米心石川との協調集荷・販売による共販率の向上

（園芸）

エ. パレット輸送システムの構築、鉄コンテナ輸送の拡大、発泡スチロール資材の段ボール化による流通コストの低減とSDGsへの取組

（営農）

オ. 農家手取り最大化、担い手コンサルによる担い手の経営改善支援

カ. リモートセンシング技術等を活用した栽培指導・作業支援の事業化に向けた検討

キ. データ駆動型農業の定着に向けた農業者支援

（肥料農薬）

ク. 肥料満車直送の拡大

ケ. 農薬担い手直送規格の充実・省力材の普及・B B肥料の取扱拡大によるコスト低減

コ. 農業結集銘柄の取組強化による取扱シェアの維持・拡大

（農機）

サ. 共同購入低価格農機導入促進によるコスト低減

シ. T A C等部門間連携による高度化・複雑化する農業機械の大規模経営体への推進力強化

（施設）

ス. より高度で専門的な提案に資するための広域事業体制の整備・検討

（燃料）

セ. マスタープランの実践とJ A-S Sの運営強化による取扱シェアの維持拡大

ソ. L Pガス小売機能強化によるシェアの維持拡大

タ. 全国域燃料会社との広域事業体制の整備による事業競争力の強化

（自動車）

チ. 重点販社銘柄の取扱シェア拡大と中古車の取扱拡大による事業競争力の強化

ツ. J Aと一体となった営農車等拡販施策強化

【J Aへの支援拡充と最適な事業体制の構築】

（米穀）

ア. 乾燥調製施設等のJ A域を超えた相互利用に向けた提案推進

イ. 県本部連合倉庫の増設検討

ウ. パレット輸送拡大等による物流の合理化

（園芸）

エ. J A域を超えた集出荷販売体制の構築に向けた施設整備の基本方針の策定

（営農）

オ. J Aと一体となった効率的な推進体制の構築（一斉訪問等、同行推進強化）

（肥料農薬）

カ. 県域受発注システムの導入

キ. 広域農家戸配送の拡大

（J Aグリーン）

ク. 業務改善・業態転換を含めた運営見直しの提案

（農機）

ケ. 能登北部J A農機センターの運営強化および

農機事業一体運営の他地区への展開

（建設）

コ. 効率的な施設利用に資するための施設建設及び再編提案等コンサル機能の発揮

（燃料）

サ. 小売事業の県域子会社での運営・受入体制整備

シ. J A域を超えた広域灯油配送体制による配送業務の効率化とコスト削減

（自動車）

ス. 自動車販売・整備の拠点・機能集約による事業体制の最適化

セ. 販売・整備一体となった人材育成

（管理）

ソ. ジャコム石川と連携した産直品主体のファーマーズマーケットの店舗展開および運営力強化による地産地消の取組強化

【新たな事業領域の拡大】

（畜産）

ア. 耕畜連携による堆肥の有効活用、循環型農業への取組

イ. 新包装肉パックセンターの建設による広域包装肉事業拠点整備

（燃料）

ウ. 次世代S S（移動式S S等）に向けた取組検討

エ. J Aでんきの普及拡大

Ⅱ. 石川県本部における事業別実施具体策

米穀事業

【販売力の強化】

- ①県産米の実需者への提案型推進の展開と販路開拓
- ②ひゃくまん穀の生産拡大に応じた販路確保、ブランド力の強化
- ③百万石乃白の生産拡大に向けたＰＲ・販促の取組強化
- ④全農インターナショナル・地元民間企業と連携した米輸出の拡大
- ⑤県産小麦の販路開拓と大豆の次期適性品種の検証

【需要に応じた計画生産と共販集荷体制の強化】

- ⑥需要に応じた主食用米の計画生産
- ⑦水田活用米穀の需要拡大と一体的取組の継続
- ⑧飼料用米を含めた多収早生品種の栽培技術確立
- ⑨酒造好適米（五百万石・百万石乃白）の生産拡大
- ⑩麦・大豆の生産拡大と2年3作体系の推進

- ①需要に応じた種子の県内種子場供給力維持
- ②米心石川との協調集荷・販売による共販率向上
- 【輸送等の合理化と産地インフラの整備】**
- ③県本部連合倉庫の増設計画の策定
- ④ＪＡ域を超えた共同乾燥調製施設の相互利用の実施による稼働率向上
- ⑤ＪＡ倉庫保管の効率化およびパレット輸送の取組拡大

【大規模経営体への対応強化】

- ⑬大規模農家への実需者指定品種（つきあかり、ミズホチカラ）による契約栽培の拡大
⑭大規模経営体への主食用米・水田活用米穀の総合的な提案推進によるＪＡ集荷率向上

【農産物検査業務の合理化】

- ⑮米穀荷受検査システム未利用 J A への推進・機械鑑定による検査の実施

園 芸 事 業

【生産振興と販売力強化】

- ①生産振興品目の生産・販売拡大
- ②ブランド品目の生産・販売拡大
- ③主要品目（すいか、だいこん、とまと、さつまいも、梨、れんこん他）を中心とした契約的取引や直接販売の拡大および産地・品目誘導による全農青果センターへの出荷拡大
- ④輸出品目の拡大と海外での販促展開（さつまいも・すいか・ぶどう）

【集出荷体制の整備と出荷資材のコスト低減】

- ⑤広域集出荷体制の整備に向けた基本方針の策定
- ⑥パレット輸送システムの構築に向けた協議継続
- ⑦発泡スチロール資材の段ボール化による資材コストの低減（ブロッコリー）

【需要に応じた種苗生産】

- ⑨主要品目・需要品目におけるポット苗生産拡大・推進強化

畜産事業

【生産基盤の維持・拡大】

- ①実験・実証農場の運営による能登牛の生産拡大・生産性向上の支援強化・担い手育成
- ②和牛子牛の生産拡大のためのリース式牛舎の導入検討
- ③全農グループによる能登豚直営農場の設置に向けた協議
- ④能登牛の東京食肉市場出荷による実需者開拓

- ⑤関係機関と連携した畜産農家の経営改善支援
⑥堆肥の有効活用に向けた堆肥袋包装の商品化

【食肉事業の販売力強化】

- ⑦需要に応じた加工品等、商品開発・提案力強化による能登牛の取扱拡大
⑧新包装肉パックセンターの建設（令和6年度稼働）
⑨新包装形態の商品開発（量販店・J A店舗）

営農対策

【生産振興と生産基盤の強化】

- ① 水稻+大麦+大豆等2年3作体系等水田高度利用の取組拡大支援
- ② 「うまい・きれい石川米づくり+1運動」を基本とした各JAの取組支援
- ③ 「ひゃくまん穀」生産拡大に向けた生産者部会の運営支援
- ④ 「みどりの食料システム戦略」実施に向けた計画作成・実証

【大規模経営体への総合的対応】

- ⑤農家手取り最大化の取組による多様な担い手への経営改善支援
- ⑥リモートセンシング技術等を活用した栽培指導と作業支援
- ⑦Z-GISの普及推進

【JAと一体になった肥料農薬推進・営農支援体制の構築】

- ⑨統合農地データ等を活用した農地管理・転作確認・
ヘリ防除受託作業の効率化支援

肥料・農薬事業

【BB肥料等のシェア拡大とコスト低減】

- ### ①B B土づくり肥料の取扱拡大

- ## ②水稲除草剤・箱施薬剤の結集品目集約によるコストの低減



- ③肥料満車直送、農薬担い手規格等充実、省力材の取扱拡大によるコスト低減
 - ④園芸主要品目部会への参画・提案事業強化による園芸農薬の取扱拡大
- 【環境対策への取組】**
- ⑤被覆肥料の代替肥料への切替と「みどりの食料システム戦略」を見据えた環境対策農薬への切替検討

農機事業

【J A 農機事業への支援強化】

- ①能登北部 J A 農機センターの運営強化と他地区への一体運営の展開
- ②各種講習会開催、販売・整備コンテストの実施、J A グループ農機検定の受験促進

建設事業

【J A 事業への支援拡充】

- ①広域集出荷拠点の新設・再編に向けたコンサル機能の発揮
- ②既存共同利用施設の広域利用に向けた中長期ビジョン策定支援

燃料事業

【マスタープランの実践と J A - S S の運営力強化】

- ①チェーン会を軸としたキャンペーン・Q R 決済を活用した販促による競争力強化
- ②S S 最適配置（マスタープラン）の実践
- ③販売力強化に向けたリニューアル促進

【L P ガス販売力強化と保安の高度化】

- ④燃料転換等の L P ガス販売力の強化・新規顧客の獲得

自動車事業

【販売・整備拠点集約等の体制整備】

- ①販売・整備拠点の集約と運営方法の整備
- ②近隣拠点間での連携による販売拡大やコスト削減

【効果的な販売施策によるシェア拡大】

- ③買取未使用車の品揃え等、営農車での拡販施策の拡充

管理部門

【県本部全体戦略実現に向けたサポート機能の強化】

- ①部門別 J A 支援策推進フォロー
- ②部門別重点施策の進捗管理
- ③インボイス制度等の法令対応

【ファーマーズマーケットの店舗展開と運営力強化】

- ④ジャコム石川と連携したファーマーズマーケットの店舗展開支援
- ⑤ファーマーズマーケットを拠点とした「地産地消」の推進ネットワークの強化

【県産農畜産物の消費拡大のための総合プロデュース】

- ⑥各メディア・SNSを利用した県産農畜産物の有効的な情報の発信
- ⑦県内外イベントでの積極的な販売促進の実施
- ⑧J A タウンの取扱商品の充実・情報発信による知名度向上

【J A 事業への支援充実・最適な事業体制の構築】

- ⑥受発注システムの導入と広域農家戸配送の拡大
- ⑦J A 産直・資材店舗の運営支援・業務改善支援
- ⑧A コープ店舗との連携や県内外の産直品による品揃えの更なる強化
- ⑨J A グリーン認知度向上対策への支援（統一キャンペーンの実施）

【低価格農機の導入促進】

- ③次期共同購入機（コンバイン）の推進強化
- ④中古農機の買取強化・中古市の開催

【部門間連携による大規模経営体への推進】

- ⑤県本部 T A C と連携したペア推進
- ⑥営農戦略室と連携した園芸関連機械の対応強化

【共同乾燥施設の機能維持に向けた提案】

- ③共同乾燥施設の機能維持に向けた提案
- ④J A 施設の中長期補修計画の提案とそれに基づいた補修の推進
- ⑤施設建設における高機能（省エネ・HACCP・リノベーション・減災）化の提案

【J A 燃料事業の基盤強化】

- ⑤本会巡回による保安指導・改善提案
- ⑥J A 小売事業（石油・ガス）の委託・譲受等に向けた県域子会社の体制整備
- ⑦広域灯油配送、ガス充填・配送効率化による物流体制の合理化
- 【新たな事業の創出】
- ⑧次世代 S S（移動式 S S 等）の取組について協議継続
- ⑨J A でんきの普及拡大

- ④重点販社銘柄の取扱シェアの拡大と中古車の取扱強化

【新たな販売形態の普及拡大】

- ⑤個人向けマイカーリースの推進
- ⑥ネット・SNSを活用した宣伝対策強化
- WEBを活用した商談・推進の体制整備

- ⑨肉匠Jade金澤、ひゃくまんぞく亭の運営強化による県産農畜産物の P R ・消費拡大

【コンプライアンス・リスク管理の徹底】

- ⑩コンプライアンス・リスク意識・知識の向上に向けた継続的な研修の実施
- ⑪拠点巡回による食品表示、労働災害等重要リスクへの管理強化

【事業運営体制の強化】

- ⑫事業体制・職場管理体制の強化
- ⑬戦略的な人材育成プログラムの実践と適正な労務管理の徹底
- ⑭固定資産の再整備

園芸課

エアリーフローラ ～旅立ちを祝う花、花言葉は「希望」～

●ひやくまんさん型撮影スポット

令和5年2月3日(金)～7日(火)の5日間、香林坊アトリオ1階アトリオステージに石川県PRキャラクターひやくまんさんを模ったエアリーフローラの撮影スポットがお目見えしました。

ひやくまんさんのオブジェは約2,000本のエアリーフローラを使用しており、色とりどりの花とその香りで訪れる人を楽しませていました。



●金沢駅での撮影スポットの設置

令和5年3月11日(土)～21日

(祝・火)の期間中、金沢駅コンコースにて、エアリーフローラのオブジェの展示が行われました。オブジェには約3,000本のエアリーフローラがふんだんに使用され、道行く人の目を楽しませました。

観光客の方も多く、かつての賑わいが戻りつつある金沢駅が彩りと優しい香りで包まれていました。

エアリー フローラ

石川県産オリジナル品種のフリージアで、その名前には「優雅な春の女神」という意味が込められています。開花の最盛期が卒業や入学など新たな旅立ちの時期と重なることから、キャッチフレーズは「旅立ちを祝う花」、そして、花言葉は「希望」。フリージアといえば黄色が一般的ですが、エアリーフローラは現在、11色で展開しています。

園芸課

能登原木しいたけ「のとてまり・のと115」 ～能登の自然が育んだ最高級椎茸～

●穴水高校「のと115」初せり @金沢市中央卸売市場

県立穴水高校の生徒が栽培した能登原木しいたけ「のと115」が、令和5年2月4日(土)、金沢市中央卸売市場でせりにかけられ、1箱10玉入が1万3,150円の値が付けられ、市場に来ていた生徒たちを喜ばせました。

穴水高校では、「のとてまり委員」の生徒が主体となって原木しいたけの栽培に取り組んでおり、今年で11年目となります。今年度は寒波が続いた影響で特秀品である「のとてまり」の該当がなく、11年間で初めて「のとてまり」の出荷は叶いませんでした。「のとてまり」の基準は厳しく、育つ確率は「100個中1個」とも言われています。

初せりに訪れた生徒らからは「寒さで大きく育たなかったが、毎日の水やりは欠かさず行いました。」「しいたけが大好きな人に食べてもらいたいです。」などお話しいただきました。



●能登原木しいたけ「のとてまり」 ～馳知事を表敬訪問～

1月26日(木)、奥能登原木しいたけ活性化協議会は馳石川県知事を訪問しました。



馳知事は自炊されていると、協議会より「しゃぶしゃぶにすると美味しいですよ」とおすすめたところ「ぜひ、しゃぶしゃぶで食べてみたい!」とお話しいただきました。

協議会よりのと115やのとてまりの出荷状況なども報告しました。



のと115・のとてまり
Facebookアカウントも
よろしくおねがいします!



園芸種苗センター

ういずOneの新規活用～いちごの試験栽培～

園芸種苗センターでは、遊休ハウスの有効活用をはかるべく、ういずOne（全農式トロ箱養液栽培システム）による農産物栽培の実証試験を行っています。

今年度は、全国で初めて、「ういずOneによるいちごの栽培」に取り組みました。栽培品種は「さちのか」480本と「宝交早生」50本で、3.6a実証ハウスの3分の1程度（約90㎡）を利用して栽培しました。

いちごは、軽量で単位面積当たりの収益が大きく、高床栽培のため身体的な負担の軽減が図られる品目で、さらにういずOneの自動灌水により肥培管理の手間も省けるという利点があります。

一方で、定植が10月頃、収穫時期が4月頃までとハウスの占有期間が長いため、水稻育苗との兼用は難しいこと、また、産地化を図るうえでは出荷選別作業の省力化や、共選体制の構築が必要となる等の課題もあります。

次年度は、栽植密度を高め、10a換算で2.5トンの収量（300万円相当）を目指すとともに、単収の向上や出荷期間の延長等に向け、適した品種や栽培時期なども検証していきます。また、ういずOneを活用した「いちご栽培のマニュアル」を作成し、県内に広めていく予定です。



経営管理課

ニッポンエールグミで子どもたちを元気に！

2月1日(水)、本会より県内のこども食堂の代表者7名を通じて、県下のこども食堂へ全農ブランド「ニッポンエール」のグミを寄付しました。

ニッポンエールは国産果汁を使用したグミを32都道府県の44種類展開しており、地域別の豊富なアイテムが特長です。

今回は県内NPO法人「ささえる絆ネットワーク北陸」が運営するこども食堂「かなざわっ子nikoniko倶楽部」様にご協力いただき、石川県産ルビーロマングミ



ミをはじめとした東海・北陸エリアの果汁を使用したグミ6種類46ケース3,680個を寄贈し、県下全域のこども食堂へ配布されました。

代表者からは、「子どもたちが喜びます」など喜びの声をいただきました。

本会では、これからも地域に根差した支援活動を実施し、地域貢献に取り組んでまいります。

米穀課
TAC営農
推進課

「ひやくまん穀」生産者大会

本格栽培6年目となる「ひやくまん穀」の生産者大会が2月17日(金)に金沢市の金沢港クルーズターミナルにて開催しました。生産者・JAグループ・県関係者約400名が参加、またオンラインでの配信も行いました。

大会では令和4年産の栽培概要・品質分析結果、5年産

での栽培対策や生産・販売方針等についての説明が行われました。また、「ひやくまん穀」コンテストの表彰式も行われ、「収量部門」では安實吉久様、「品質部門」では中西聖様、「総合部門」では農事組合法人さかい様が優秀な成績を収められ、受賞されました。

5年産の県下の作付は2,155ha、出荷量は12,000トンを見込んでおり、今後も「ひやくまん穀」の高品質・安定生産と評価向上を目指して一丸となって取り組んでまいります。



令和4年産「ひやくまん穀」コンテスト 成績概要

部 門	受 賞 者	支部・JA	成績概要
収量部門	安實 吉久様	白山石川・松任	単 収 743kg/10a (県下平均 583kg/10a)
品質部門	中西 聖様	白山石川・白山	整粒歩合 73.3% (県下平均 48.3%)
総合部門	農事組合法人さかい様	県央・石川かほく	単 収 636kg/10a、整粒歩合 60.9%、 千 粒 重 26.0g (県下平均 25.2g)

開発広報課
米穀課
畜産販売課

「石川県食材フェア」の開催 inみのる食堂銀座三越店・焼肉じゅん・籠乃屋本店

本所直営店舗「みのる食堂銀座三越店」「焼肉じゅん(枚方市役所前店)」ならびにKRフードサービス直営店舗「籠乃屋本店(大阪府八尾市)」にて石川県食材フェアを実施しております。「みのる食堂銀座三越店」は3月1日～31日の1か月間、「焼肉じゅん」と「籠乃屋本店」では2月1日～3月31日までの2か月間、店内で使うお米を全て「ひやくまん穀」に切り替え、「能登牛」を使用したメニューを提供しました。ステーキ定食やしゃぶしゃぶなど各店舗の特色を活かしたメニューはお客様に

たいへん好評いただいております。今後も県外でフェア等を実施し、石川県産農畜産物のPRを行い、一般消費者への認知度拡大を目指します。



籠乃屋本店



焼肉じゅん



みのる食堂POP



みのる食堂

令和4年度 JAグループ石川 TACパワーアップ大会

2月3日(金)、ホテル金沢において「JAグループ石川TACパワーアップ大会」を開催しました。本大会は、県内における優秀TACへの表彰や全国の先進取り組み事例の共有化などを行い、県内のTAC活動のレベルアップとスキル向上を目的に開催しております。

優秀TAC賞では、たまねぎ産地の形成に向けて取り組んだ西田誠也さん(JA能美)、梅部会の課題探求を実施した日下詩織さん(JA金沢市)が表彰されました。合わせて優秀新人TAC賞2名、レジェンドTAC賞2名、昨年の全国TACパワーアップ大会で表彰された1JA・2名を特別表彰として表彰し、取組発表を行っていただきました。最後に日下さんより、担い手との信頼関係強化・TAC活動の実践について、大会決議をしていただきました。

農家組合員への有益な情報提供や営農指導を通じて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」へ取り組むTAC活動を今後も強化していきます。



受賞者



日下さんによる大会決議



会場の様子

受賞者・JA

優秀TAC賞

西田 誠也 氏(JA能美)
日下 詩織 氏(JA金沢市)

レジェンドTAC賞

櫻井 和幸 氏(JA石川かほく)
松井 博暉 氏(JA石川かほく)

優秀新人TAC表彰

高森 静香 氏(JA石川かほく)
高田 雄介 氏(JA金沢市)

特別表彰

JA金沢市
中田 昌孝 氏(JA松任)
山本 裕介 氏(JA石川かほく)

令和4年度 JAグループ石川 営農指導実践大会

2月3日(金)、ホテル金沢において「JAグループ石川営農指導実践大会」を開催しました。本大会では、生産振興の推進や、事業承継支援や新規就農者の育成支援をはじめとする地域農業の維持支援、戦略の実践を担うJA職員の人材育成を目的に開催しております。

中央会の西専務より、「地域農業の振興に力を注ぐ営農指導事業は、農業を基本としている農業協同組合において組合員を結集する根幹の事業であり、なくてはならない取組」と挨拶されました。

JA全中の中村課長から、「全中として次世代総点検運動を本気でやっていく、次の世代の担い手を育て確保していく、JA総合事業マネージャーは理想的なTAC管理者、現状営農経済の人材育成体系が整っていない」など今後の取組や現状課題について情勢報告がありました。

県外優良実践事例報告では青森県JAつがる弘前の三上生産係長をお招きし、「りんごJAにおける園芸作物拡大の新たな仕組みづくりの実践」と題して、りんご・米に続く第3の園芸品目振興・産地づくりについての工夫・着眼点について講演いただき、水稻中心の本県における取組にも非常に参考になる講演が行われました。最後にJA能美の上田啓太さんより、不断の自己改革によるさらなる営農指導強化について、大会決議をしていただきました。



株式会社
ジャコム石川

令和5年度
エコープマーク品推進大会兼研修会

株式会社ジャコム石川では3月7日(火)にホテル日航金沢において県内の15J Aから女性部代表やJ A直売所関係者ら約100名の参集により「令和5年度エコープマーク品推進大会兼研修会」を開催しました。

講演会では、(一社)農協流通研究所の廣瀬昌男店舗事業部長から「安心・安全なエコープマーク品」と題して、エコープマーク品と一般市販品の違いを原材料表示内容の分析実験や食べ比べによって分かりやすくご説明いただきました。マヨネーズやオイスターソース、ケチャップを実際に食べ比べ、参加者からは「まろやかっ!」「ちゃんと牡蠣の味がする」「全然違う」などのエコープマーク品を高評価する声が聞かれ、実際に見て味わうことでより一層エコープ商品への信頼が高まりました。

また、エコープマーク品を取り扱うメーカー15社のブースを回り商品紹介を聞く研修会を行い、商品のおすすめポイントやレシピなどを学ぶ機会となりました。

この講演会や研修会で習得した知識を
今後お客様に商品を提供していくうえで
活かしていきたいと再認識した機会になりました。



「農産物直売所向け創意工夫陳列コンテスト表彰式」＜受賞JA・直売所＞

全農くらし支援事業部 優秀賞・ジャコム石川特別賞

J A おおぞら・能登おおぞら村穴水

ジャコム石川 社長賞

J A白山・よらんかいねえ広場

ジャコム石川 専務賞

JAはくい・JAグリーンはくい

厚生産業特別賞

ＪＡ小松市・ＪＡあぐり・ＪＡ能美
ＪＡグリーン能美・ＪＡ金沢市・ほがらか村本店



安心と信頼の
くらしの良品

エコープマーク品とは

国産へのこだわりと安全・安心の品質。

JAグループのプライベートブランドです。

「安全・安心」にこだわり

食品添加物は摂取低減を基本として開発しています。
不必要なもの、安全性に疑いのあるものは使用していません。

安心の国産原料

エコープマーク品は、安全・安心な国産の原材料を優先的に
使用しています。主要原材料が国産100%であるもののみ
「国産愛用マーク」を表示するようにしています。

地球環境にも配慮して商品開発を行っています。

- リサイクルをすすめるゴミを削減
- 再生紙利用で森林資源を保護
- 水質汚染の原因物質の未使用





炊き方リニューアルで
米心石川のごはんが
さらに美味しくなりました
キャンペーン

さらに美味しくなったひやくまん穀・お米屋さんシリーズの
おにぎりを購入し、点数シールを集めてご応募いただくと
抽選で素敵な賞品をプレゼント！

応募期間
2023年
4月1日(土)
5月31日(水)
当日消印有効

石川
県産

1点 コース

QUOカード
500円 抽選で**100名**様

3点 コース

マイハートセット
ひやくまん穀2kg、一握のきらめき2kgを
含むオリジナルセット 抽選で**50名**様

10点 コース

米心石川 工場見学ご招待
●1組最大5名まで。
●招待日は夏頃を予定しています。
●ご当選者様には別途案内いたします。 抽選で**5組**

対象商品 ・ひやくまん穀おにぎりシリーズ
・お米屋さんがつくったおにぎりシリーズ

応募期間 2023年4月1日(土)～5月31日(水)
当日消印有効

応募方法 官製はがきに、氏名、フリガナ、性別(任意)、年齢(任意)、住所、電話番号、希望するコースを記入し、ひやくまん穀
おにぎりシリーズかお米屋さんがつくったおにぎりシリーズに付いている点数シールを必要枚数分セロハンテープ
などで貼ったうえで、下記の宛先にお送りください。

応募期間 〒920-0364 石川県金沢市松島1丁目1番地 株式会社 米心石川「さらに美味しくなりましたキャンペーン」係

※賞品は変更になる場合があります。※当選者様の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。※ご記入もれや点数不足の場合、賞品の発送は出来かねますので、ご了承ください。※長期不在・住所不明等により賞品をお届けできない場合は、当選を無効とさせていただきます。ご了承ください。

「つくる」と「たべる」のあいだに...
マイハート 株式会社 米心石川

米心石川は食品安全の国際規格FSSC22000認証を取得しております。

金沢市松島1丁目1番地 Tel.076-240-5788 米心石川

検索

JAホーム

新築完成内見会のご案内

SNSで
情報配信中！

@ja_home_ishikawa

**インナーガレージのある
バリアフリー住宅**

ご夫婦の趣味を大切に、将来を安心して暮らせる住まい。
玄関のスロープや数ヶ所に設けた腰掛けベンチ、手すり等々。
お子様からご年配の方まで、すべての人に優しいつくり。
平屋のように生活の拠点を1階へと移行できる間取りです。

期間中毎日開催！

2/11(土)
～3/19(日)

10:00 ▶ 16:00

in かほく市学園台

玄関ホールから愛車を眺められる

内玄関でラクラク

事前予約制

QR読み または **お電話** にて！

(株)JA建設エナジー 住宅課
TEL 076-240-5441 (平日 8:30～17:15)



ひやくまん穀 無洗米 キャンペーン

美味しくて
便利!

ひやくまん穀を
美味しく炊こう!



炊飯器

抽選で50名様にプレゼント!



さらにWチャンスでエアリーフローラを100名様にプレゼント!

※画像は全てイメージです。



対象 ひやくまん穀無洗米商品
(マイハートブランド・2kg・5kg 精米)を購入された方

応募方法 ひやくまん穀無洗米商品(マイハートブランド・2kg・5kg 精米)に
貼られている2次元コードからアクセスし、住所、氏名、年齢、職業、
電話番号、ご購入店舗名、購入したひやくまん穀無洗米のレシート
を撮影した画像など、必要事項を入力の上、ご応募ください。

応募期間 令和5年2月1日(水)～
3月31日(金)23時59分まで

問合せ先 JA全農いしかわ
ひやくまん穀無洗米キャンペーン事務局
Tel.076-240-5331



▲詳細はこちらから

JAグループ石川

私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

発行所/全国農業協同組合連合会 石川県本部
管理部 開発広報課

〒920-0383 金沢市古府1丁目220番地
TEL (076) 240-5371 FAX (076) 240-5319
http://www.is.zennoh.or.jp